

いつせい地方選挙の争点にも

リニア新幹線プロジェクトチームが会合

国会議員団「リニア中央新幹線問題プロジェクトチーム」(責任者・穀田恵二衆院議員)は17日、国会内で会合を開き、住民から寄せられた意見や各地の調査で明らかになった現状を報告しました。

党中央委員会の「リニア中央新幹線問題対策チーム」のメンバーも参加。責任者の小池晃副委員長は「(リニア計画は)環境破壊やエネルギー浪費など多面的な問題が指摘されており、住民の関心も高い」と述べ、全党を挙げて取り組む必要性を強調しました。

穀田、小池両氏のほか本村伸子、島津幸広、清水忠史の各衆院議員と井上哲士、辰巳孝太郎の両参院議員が出席しました。

穀田氏は、いつせい地方選挙の争点にもなるとして、▽自然と生活環境を破壊する▽周辺開発に巨額の税金を投入する▽用地買収を自治体職員に任せる—などの問題点を確認。「総選挙で躍進した力を発揮し、それぞれの地域の要求・運動と結び、国会論戦や調査・懇談活動を発展させよう」とのべました。

本村氏は、JR東海が名古屋駅周辺で用地買収を始めている実態を示し、「住民の不安を無視して建設を強行する姿勢を許さない論戦を強めたい」と発言。島津氏は、南アルプスの沢を残土で埋め立てる計画や大井川の減水で下流域への影響が懸念され、「静岡県内の」自治体から厳しい意見が出されている」と報告しました。(2月18日しんぶん赤旗)



岐阜県 アクセス道路に25億7千万円 用地取得交渉に1億2千万円

JR東海はリニアを全額自己負担で建設するといいますが、本格着工を前に、自治体の負担が相次いで明らかになっています。

岐阜県の新年度当初予算案では、リニア中央新幹線岐阜県駅(中津川市)へのアクセス道路となる濃飛横断自動車道に25億7千万円を計上。2015年度中に和良々金山区間の供用開始を予定しています。今後延伸されていく濃飛横断自動車道の予定ルートでは希少植物のハナノキやシデコブシの存続が危惧されるエリアを貫く計画となっているのに、ルートの変更は検討されていません。

岐阜県の当初予算案でのリニア関連は、アクセス道路にとどまりません。

2027年のリニア中央新幹線開業に向け、建設工事にとりかわって県として推進します。予算案としては1億2千5百58万円。「リニア中央新幹線事業推進費」としてしっかりと税金が投入される予算案になっています。



ハナノキ

愛知県新年度予算 リニア用地費1500万円

オオタカがあぶない

愛知県春日井市内に建設される保守基地取得の事業受託費として、愛知県は新年度予算案に約1500万円を盛り込む方針を固めました。県はJR東海と県の外郭団体「県土地開発公社」の3者で用地交渉に関する協定を結ぶ方針です。

保守基地は、リニアの線路にあたる軌道などの保守や点検の拠点施設。リニアの本線から保守基地へ枝分かれする支線を引いたうえで地上に車両庫や作業庫などが建設されます。

保守基地に予定されているのは、春日井市西尾町(さいおちよう)の3・5畝の土地で、田畑として利用されていますが、ここはオオタカが生息していることを環境省が認めている地域です。建設のためには用地取得が必要となりますが、環境大臣意見で「人の立ち入りのできる限りの回避や営業期の工事の回避」を求めているエリアです。

1500万円は土地取得にあたる公社の人件費や用地補償額の算定費用などに充てられます。